

2025 年度生態工学会 第 1 回理事会

日 時:2025 年 5 月 28 日(水)14:15~15:30

場 所:東京文化会館

【総務委員会】

2024 年度総務委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 2024 年度総会

総会(2024 年 6 月 29 日開催:愛媛大学樟味キャンパス)では、2023 年度の活動報告、会計(監査)報告、2024 年度事業計画および予算について審議し、承認された。

(2) 理事会

1)第1回理事会

2024 年 5 月 29 日にハイブリッド開催(東京文化会館、Zoom)し、2024 年度年次総会の議案を審議し、承認された。

2)第 2 回理事会

2024 年 10 月 29 日にハイブリッド開催(東京文化会館、Zoom)し、各委員会活動の中間報告と今後の予定について審議・承認がなされた。また、2024 年度年次大会の開催場所、日程が審議され、2024 年 6 月 29-30 日、愛媛大学での開催が承認された。

3)第 3 回理事会

2025 年 3 月 4 日に web 開催(Zoom)し、2025 年度年次大会の準備状況が報告された。また、学会賞候補者の選考結果等の案件について審議、承認された。

(3) 総務委員会

総務委員会を 3 回(2024 年 5 月 29 日、10 月 29 日、2025 年 3 月 4 日)開催し、委員会活動全般につき協議した。

(4) 会員状況

会員数:2025 年 5 月 23 日現在(カッコ内は 2025 年 2 月 25 日からの増減)

終身会員 1 名(増減なし)

正会員 322 名(増減なし)

学生会員 81 名(増減なし)

合計 404 名(増減なし)

賛助会員数:5 団体 6 口(増減なし)

ダイキン工業株式会社(2 口)、ホテイ産業研究所(1 口)、

宇宙システム開発株式会社(1 口)、クリムゾンインタラクティブ(1 口)、

プライムデリカ株式会社(1 口)

会費納入状況: 29/ 115 人(約 25.2%)

※会費免除:34 人

(5) 審議事項

- ・令和7年度(第26回)民間部門農林水産研究開発功績者表彰のご案内について、候補者がいたら総務委員会にご連絡いただくこととなった。
- ・日本工学会 令和7年度第1回会長・フェロー懇談会への参加について、船田会長にご出席いただくこととなった。
- ・2026年度日本農学会シンポジウムテーマの募集について、希望者があれば事務局にご連絡いただくこととなった。

(6) 報告事項

- ・船田良会長が2025年日本農学賞および読売農学賞を受賞された。
- ・日本農業工学会40周年事業功績賞を大政謙次名誉会員、北宅善昭名誉会員が受賞された。
- ・2025年度 日本農業工学会賞表彰式・フェロー授賞式、受賞講演会が5月10日に開催され、当会からは齋藤高弘副会長に「日本農業工学会賞 2024」、蘆原昌司副会長、細井文樹副会長にフェローの称号が授与された。
- ・2025年コスモス国際賞に、跡見順子顧問を推薦した。
- ・第69回宇宙科学技術連合講演会への協賛を行った。

2025年度総務委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 学会運営

財政的にも自立し、従来にも増して効率的な運営をはかる。事務局業務を委託している株式会社アドスリーとの連携を密にし、適切で遅滞のない運営を行う。

(2) 学会活動の活性化

定例シンポジウム開催を定常化し、研究部会活動を推進するなど、学会活動の一層の活性化をはかる。

(3) 支部活動の支援

支部によるシンポジウム開催などの活動を積極的に支援し、支部活動を含めた学会活動全体の活性化に努める。

(4) 会員数の拡大

年次大会・イベント等を通じ、魅力ある学会をPRし、勧誘に努める。

以上

【編集委員会】

2024 年度編集委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 生態工学会誌の発刊

生態工学会誌「生態工学」36 巻 2 号～37 巻 1 号(2024 年 4 月、7 月、10 月、2025 年 1 月発刊)を発行した(内容:原著論文 3、短報 3、受賞記念寄稿 1、ニュース・企画・報告 0、お知らせ、投稿規程)。なお、2025 年 4 月 23 日時点で査読中の原著論文は 0 報、著者修正中の原著論文が 1 報、受理済みの原著論文が 1 報であり、短報は査読中 0 報、修正中 1 報、受理済 0 報である。

また、37 巻 1 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2024 年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第 36 巻			第 37 巻
	2	3	4	1
特別寄稿				
特集論文				
原著論文	2	1		
短報	1		1	1
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿		1		
ニュース・企画・報告				

(2) 編集委員会の実施

2024 年度は大会時の編集委員会および定例メール会議 4 回を実施した。

(3) 学会賞の推薦

本年度は奨励賞、論文賞の該当者なしとして表彰委員会に報告した。

2025 年度編集委員会 事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 生態工学会誌の発刊

37 巻 2 号～38 巻 1 号までの計 4 回の発刊を行う。随時、特集企画を組んで紙面の充実を図るとともに、総合論文、特集記事などの投稿依頼を積極的に行う。また、生態工学会学術賞受賞者に寄稿をお願いする。さらに、原著論文の投稿増加を目指す。

(2) 投稿規程等の整備

必要に応じて投稿規程等を実態に即した形に随時改定する。

(3) 原著論文の査読体制についての整備

必要に応じて原著論文の査読体制をより迅速なものにするための改定を行なう。

(4) 学会誌電子ジャーナルの公開

今年度も科学技術情報発信・流通総合システム「J-STAGE」において、本学会誌を電子ジャーナルとして公開する。公開に関する詳細については、利用状況を参考にしながら必要に応じ改定する

以上

【企画委員会】

2024 年度企画委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合 2024 年大会(合同開催)

日 時:2024年5月26日(日)～5月31日(金)

会 場:幕張メッセ、オンライン(ハイブリット方式)

主 催:日本地球惑星科学連合

特記事項:5月26日(日)にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表5件(13:45～15:00)、現地ポスター発表5件(17:15～18:45)を実施した。また、同日にポスターフラッシュトーク(15:00-15:15)を実施した。

(2) 2024 年度生態工学会年次大会(主催)

日 時:2024年6月29日(土)～6月30日(日)

会 場:愛媛大学樟味キャンパス農学部大講義室

参加人数:80名

特記事項:

■ 6/28 エクスカーション「植物工場研究センター(当時)」参加9名

■ 一般セッション口頭発表 10件、ポスターセッション 16件

■ オーガナイズドセッション 4件

「食と健康の未来を考える」 関西支部、産学連携委員会

「宇宙での食料生産」 宇宙事業推進委員会、CELSS委員会

「循環型社会構築の展望と課題」 循環型社会構築委員会

「日本を元気にするNPOの活動」 NPO法人蔵前バイオエネルギー

■ 一般公開シンポジウム「中山間地域と里山の持続性に貢献する農林業DX」

1. DX で強くなる中山間地域の高付加価値農業生産

「トライアングルエヒメ推進事業における農業 DX への期待」

高岡晃仁(愛媛県企画振興部 デジタル戦略局長)

「施設園芸を強くする最新スピーキングプラントアプローチ(SPA)」

高山弘太郎(豊技大院 教授、愛媛大院 教授)

「ストロング・ミニマム園芸を支える DX～施設園芸と柑橘～」

藤内直道(愛媛大院 助教)

2. 中山間地域の維持に不可欠な里山の DX

「里山を構成する森林を対象としたデジタル計測」

都築勇人(愛媛大院 准教授)

「科学的知見に基づいた森林保全を通じた里山の維持」

鍋嶋絵里(愛媛大院 准教授)

「森林教育の DX と森林・林業 GX・SX 担い手育成」

小林 修(愛媛大 教授、SDGs 推進室副室長)

(3) 日本マイクログラビティ応用学会 第 35 回学術講演会 JASMAC-36(協賛)

日時:2024年9月10日(火)～9月12日(木)、会場:同志社大学室町キャンパス寒梅館

特記事項:オーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」を9月11日に実施。

OS1-1 月の縦孔・地下空洞 ○春山純一、○JAXA/うずめワーキンググループ

OS1-2 花柄ディンプルと曲線折りで金属製多面体を展開する月面ベースキャンプ

○佐藤 淳, 河緒実之, 横関智弘(東京大学), 斉藤一哉(九州大学), 大畑勝人
(株)竹中工務店), 桜井誠人, 阿波田康之, 星之内菜生(JAXA)

OS1-4 一般民間人滞在のための快適ECLSS ○野中 朋美、○早稲田大学

OS1-5 宇宙に地球の生態系は必要か? ○山敷庸亮、○京都大学

(4) 第68回宇宙科学技術連合講演会(共催)

日 時: 2024年11月5日(火)~11月8日(金)

会 場: 姫路市文化コンベンションセンターアクリエ ひめじ(兵庫県姫路市)

特記事項: オーガナイズドセッション「宇宙で生きる! ~宇宙居住と物質循環~」

一番大きな会場で元宇宙飛行士二名の発表もあった。

3A17 ECLSS 研究開発の今後10 年の傾向と対策○桜井 誠人, 島 明日香(JAXA)

3A18 有人宇宙開発における日本の役割強化 - 教育プラットフォームとしてのECLSS LAB
のケーススタディ、蓮見 大聖(Amateras Space Inc.)他

3A19 月面1000 人社会におけるECLSS モデルシミュレーション○諸島 玲治, 広崎 朋史
(宇宙システム開発), 他

3A20 有人Mars Flyby ミッションのECLSS 設計の課題○宮嶋 宏行(国際医療福祉大)

4A01 有人宇宙活動における循環型社会の実現に向けた課題○市村 周一(京大)他

4A02 宇宙的日常性を体験する食体験ワークショップ「うちゅうのふつつ。ちきゅうの
ふつつ。うちゅうでふつつ。」○野中 朋美(早大)他

4A03 未来世代の化学を創る連続生産技術○増田 光一郎(産総研)

4A04 ハイブリッド型生命維持システムとその要素技術のスピノフ○小口 美津夫

4A05 有人宇宙探査向け水再生システムの開発とその軌道上実証状況○松本 千誉(栗田
工業)他

4A06 宇宙居住に資する窒素化合物回収と資源化○高橋 顕(産総研)

4A07 有人宇宙技術を支える金属錯体系吸着剤○堀 彰宏(SyncMOF, VitaCarb
Innovations),

4A08 イオン液体膜を用いた空気中CO₂ の直接回収技術○牧野 貴至(産総研)

4A09 光を駆動力とするCO₂ 回収: 光異性化スイング○稲垣 冬彦(神戸学院大)他

4A10 酸素製造-サバチエ反応-一体化反応器の改良とシステム検討○島 明日香(JAXA)

4A11 ガスリッチな気液二相流に適用する回転式気液分離器の研究、島 明日香(JAXA)

4A12 宇宙基地物資循環システムにおけるエクセルギー評価のためのツール開発、○佐藤
俊太(慶應大)

4A13 「宇宙基地における物資循環システムのエクセルギーをベースにした設計手法の考
察及びその評価」○山崎 直子(東大(元))他

4A14 宇宙生活における実体験に基づくECLSS に関連するトピックの紹介○若田 光一
(Axiomspace)

(5) 定例研究会

第1回定例研究会

日 時 : 5月29日(第1回理事会後)

タイトル: 最小の植物病原体ウィロイド

演者 : (国研)農研機構 植物防疫研究部門

上級研究員 松下陽介氏

第2回定例研究会

日 時 : 10月29日(第2回理事会後)

タイトル: 対話型鑑賞が拓く環境有機農業への好奇心

演者 : 筑波大学 非常勤講師、NPO法人日本火星協会 理事

物質・材料研究機構 特別専門職

新井真由美 理事

第3回定例研究会

日 時 : 3月4日(第3回理事会後)

タイトル: 最近の宇宙開発全般にわたるトピックスの紹介

演者 : JAXA 桜井誠人 理事

2025 年度企画委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 日本地球惑星科学連合2025年大会(合同開催)

日 時: 2025年5月25日(日)～5月30日(金)

会 場: 幕張メッセ、オンライン(ハイブリット方式)

主 催: 日本地球惑星科学連合

特記事項: 5月25日(日)にセッション「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、口頭発表とポスター発表を実施する。

(2) 2025年度生態工学会年次大会(主催)

日 時: 2025年7月4日(金)～7月5日(土)

会 場: 柏の葉カンファレンスセンター

特記事項: 7月3日にエクスカーション、4日に総会、表彰式を実施する。4日、5日に口頭とポスターの研究発表、オーガナイズドセッション3件を設ける。

(3) 日本マイクログラビティ応用学会 第37回学術講演会 JASMAC-37(協賛)

日 時: 2025年9月11日(木)～9月13日(土)

会 場: 北海道室蘭市 FKホールディングス生涯学習センターきらん

特記事項: オーガナイズドセッション「宇宙惑星居住・ECLSS」を実施予定

(4) 第69回宇宙科学技術連合講演会(共催)

日 時: 2025年11月25日(火)～11月28日(金)

会 場: 札幌コンベンションセンター(北海道札幌市)

特記事項: オーガナイズドセッション「宇宙で生きる! ～宇宙居住と物質循環～」を実施予定

(5) 第2回 生態工学オンラインシンポジウム(主催)

日 時: 未 定

会 場: オンライン

テーマ: 食をキーワードに資源循環や生態系、脱炭素などと絡めた内容を検討する。

特記事項: 全国からの聴講が期待できるため、本年度もオンラインでの開催とする。

(6) 定例研究会

5月28日理事会後は、演者調整遅れにより開催を見送る。

第2回以降は、理事会後に実施する予定。

以上

【表彰委員会】

2024 年度表彰委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 表彰式の実施

2024 年 6 月 29、30 日に愛媛大学で開催された 2024 年度年次大会にて、以下の通り表彰した。

【論文賞】

掛川 寿夫 氏

「高濃度 6 価クロム含有メッキ工場排水の簡易的处理方法」(34 巻 4 号)

【奨励賞】

オン 碧 氏

「Contribution of extracellular substances to cell protective abilities against UV radiation and differentiation of germination, vegetative cells and hormogonia, during their life cycle in Nostoc sp. HK-01 (Nostoc sp. HK-01 の生活環における細胞外物質の紫外線防御と発芽と細胞分化への貢献)」(35 巻 1 号)

【奨励賞】

風岡 菜月 氏

「育苗施設におけるワサビ苗の生育におよぼす環境影響評価およびそれに基づく静岡県近郊におけるワサビ生産適地の探索」(35 巻 2 号)

【奨励賞】

坂口 直己 氏

「店頭生育維持システムにおける光環境の違いがスイートバジルの香りに及ぼす影響の評価」(35 巻 3 号)

【優秀講演賞】

林 拓哉 殿

「植物群落の風による 3 次元構造及び直達光強度変化の評価方法の開発」

白石 カ 殿

「ヤイトハタ *Epinephelus malabaricus* 飼育廃水を用いた異なる塩分環境下におけるシーアスパラガス *Salicornia bigelovii* の栽培に関する研究」

小林 巧磨 殿

「人工衛星とドローンを活用したインドネシア中央カリマンタンにおける泥炭地火災発生状況の調査」

松井 陽和 殿

「人工光型植物工場でのアクアポニックスによるイチゴ生産」

花房 峻亮 殿

「異なる出力のマイクロ波照射がホップの色調、ポリフェノールおよび Linalool に及ぼす影響」

赤木 知裕 殿

「排水処理施設において高密度発生する水生ミミズの生物学的特性と生態工学的利用の可能性」

2025 年度表彰委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 表彰式の実施

2025 年 7 月 4 日の総会後に表彰式を行ない、2025 年度被表彰者を表彰する。優秀講演賞については全発表が終了した後、表彰委員会の選考を経て、表彰する。

(2) 被表彰者の募集と選考

各賞の被表彰者の募集および候補者の選考を表彰規定に基づき実施する。

以上

【広報委員会】

2024 年度広報委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) SEE Quick(メール配信)の運営

SEE QUICK 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員および関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ、2024 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までに 74 回(2330 より 2403 号)情報提供を行った。

配信内容としては、学会主催のイベントの開催案内の他、関連学協会からの団体からのお知らせ、および会員からのイベント開催案内、ならびに公募情報等であった。

(2) ホームページの内容の更新

会員および一般の方へ、生態工学会の情報伝達を迅速に行うことを目的に、ホームページのコンテンツ確認作業を行い、適宜内容を更新した。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの記載内容(第 12 期役員名簿の改訂等)の改訂を行い、HP 内の内に掲載した。

2025 年度広報委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) SEE Quick 配信(メール配信)の運営

円滑な SEE QUICK の配信業務を行うとともに、問題点などを検証し改善に努める。
また、会員からの有用な情報を迅速に配信できる体制を維持する。

(2) ホームページの内容の更新

迅速な HP の内容の更新と整備を行い、会員および一般の方への情報提供を行う。また、HP コンテンツ拡充のため、他学会 HP 等の内容を調査し、当学会 HP の充実・改善に努める。

(3) 生態工学会リーフレットの改訂

生態工学会リーフレットの内容を適宜見直し改訂を行うとともに、ホームページに掲載する。

以上

【国際委員会】

2024 年度国際委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

University of Arizona, Biosphere 2, annual symposium 2025 へのオンライン参加に関するコンタクト。

2025 年度国際委員会事業計画

下記の計画が発表された。

- (1) タイ、カセサート大学との交流について引き続き検討をおこなう。
- (2) その他、生態工学に関わる海外とのコンタクトポイントの開拓、オンラインセミナーなど海外情報の提供などを適宜おこなう。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2024 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続している。生態工学会は、男女共同参画学協会連絡会内で、日本宇宙生物科学会と供に、「男女共同参画学協会連絡会」に関する問題洗い出しWG活動を行い、2024年の男女共同参画学協会連絡会シンポジウムにてポスター発表した。世代を超えて知り合い語り合う場である NAGOMin(NAGOMI 会)も同様に継続している。第 24 回からは学生向けの内容、学生および大学院生の研究生生活について、様々な分野で活躍する方のワークライフバランスについて話題提供した。2023 年度後半より総務委員会の協力を得て個別 zoom を利用した。日本地球惑星科学連合 2024 年大会(千葉幕張メッセ・ハイブリッド)に企画委員会とともにセッションを開催した。

2025 年度次世代科学社会活性化委員会事業計画

下記の計画が発表された。

引き続き、男女共同参画学協会連絡会の運営委員として活動を継続し、男女共同参画学協会連絡会内で日本宇宙生物科学会と協力して「男女共同参画学協会連絡会」に関する問題洗い出しWG活動を行う予定である。NAGOMIin(NAGOMI 会)についても継続を予定しており、総務委員会の協力を得て個別 zoom を利用して引き続き活動する予定である。日本地球惑星科学連合 2025 年大会(千葉幕張メッセ・ハイブリッド)を企画委員会とともにセッションを開催予定である。当委員会は、世代や性別等を区別することなく、広く互いに知り合う会として、引き続き活動していく予定である。委員会活動のために協力者を随時募集する。

以上

【産学連携委員会・関西支部】

2024 年度産学連携委員会・関西支部活動報告

下記のように報告がなされた。

【「食と健康の未来を考える」オーガナイズドセッション】

愛媛大会で産学連携委員会と関西支部の主催で食と健康をテーマとしたオーガナイズドセッションを下記のとおりを実施した。

- ・日時: 2024 年 6 月 29 日(土) 10:45～12:00
- ・場所: 愛媛大学
- ・主催: 生態工学会 産学連携委員会、関西支部
- ・内容:
 1. 本セッションの主旨・経緯説明(10 分) 生態工学会関西支部長 伊能利郎
(ダイキンアプライドシステムズ)
 2. 講演、話題提供(各 15 分、※印はビデオからの登壇)
 - ・神戸大学医学部附属病院栄養管理部部長／糖尿病・内分泌内科
「食健幸プロジェクト」 特命講師 高橋路子氏※
 - ・住化分析センター大阪ラボラトリー 副技師長 松岡康子氏
「美味しさの感性評価」
 - ・大阪公立大学大学院農学研究科 准教授 山口 タ氏※
「植物工場野菜の機能性」
 - ・大倉工業R&Dセンター 課長 加藤尚士氏
「加圧熱水抽出技術による食物残渣からの機能性成分抽出」
 3. まとめ、終わりの挨拶(2 分) 生態工学会関西支部長 伊能利郎

【シンポジウム開催】

- ・開催時期: '25 年 3 月 13 日(木) 14:00～16:30
- ・開催形式: オンライン開催@ダイキンアプライドシステムズ大阪支店
- ・テーマ : 食と健康の未来 & 健康寿命の延伸に向けて
～食品業界の取り組みの流れ～
- ・次 第 :
 - ・挨拶、支部取組み、経緯のご紹介(5 分)
 - ・基調講演(30 分)『いざ！もしも！食の備えで健康に』
・医薬基盤・健康・栄養研究所 災害栄養情報研究室
室長 坪山(笠岡) 宜代氏
 - ・セミナー(25 分×3＝75 分質疑応答含む)
 - ・学研フードテック共創プラットフォーム 特命参与 小田一彦氏
『けいはんな学研都市におけるフードテックの取組～食と健康の未来を踏まえて～』
 - ・ミツカンホールディングス株式会社戦略企画部 部長 岡本洋忠氏
『自然の力と素材を活用したイノベーション』
 - ・日本食研株式会社 食未来研究室 室長 児玉一穂氏
『ライフスタイルの変化と食市場全体の動向』
 - ・パネルディスカッション(25 分) ～食品業界の取り組みの流れ～
- ・まとめ
- ・関西支部新入会員ご紹介
- ・終わりの挨拶

【コメント】

- ・食の産業化に一步でも近づける取組みとして技術シーズのバリューチェーン化案を提案した。
- ・支部シンポジウムは60名余りに参加登録いただき、当日は40名余りの方にご参加いただいた。
- ・ご参加いただいた皆様のアンケートからは全体を通じて幅広いテーマが扱われており、参加者それぞれにとって有意義な機会となった様子が伺えた。
- ・今後もアカデミアの様々なシーズのコーディネート、アレンジにより、産業化につなげる仕組みづくりを進めていきたい。

2025年度産学連携委員会・関西支部事業計画

下記の計画が発表された。

【大阪・関西万博開催記念活動】

55年ぶりに関西で開催される万博を機に「盛り上がろう関西、盛り上がろう大阪」をテーマとした活動を行っていく。

・大阪・関西万博開催記念合同シンポジウム開催

生態工学会関西支部、日本生物環境工学会西日本支部共催で大阪・関西万博にフォーカスしたシンポジウムを開催する。

・日時: 2025年6月27日(金) 14:30～17:00

・場所: I-site なんば+オンライン

・内容: 大阪・関西万博関連の話題提供を産業側と大学側の双方から行っていただく。

〈ダイキン関連〉

① 高原レストラン「水空 SUIKUU」 プロジェクトリーダー 関 康一郎氏(ダイキン工業)

② 氷の木陰「氷のクールスポット」 建築設計 足立奈美依氏(ダイキン APS)

〈大阪公立大学 PFC 関連〉

③ いのちの湧水(いずみ)

大阪公立大学植物工場研究センター・センター長 北宅善昭氏

④ ミライ人間洗濯機 株式会社サイエンス 執行役員商品部長 前野聖志氏

〈関連行事のご紹介〉

・EXPO2025 パーチャル万博～空飛ぶ夢洲～

・けいはんな万博 2025(関西文化学術研究都市推進機構)

【食と健康シンポジウム開催】

・食と健康をテーマにしたシンポジウム開催の継続

・「食文化から紐解く健康への誘い(仮)」をサブテーマとしたシンポジウムを企画したい。

・様々な伝統的食文化にスポットを当て、垣間見えてくる健康との繋がりを紐解く。

・産業界に近い地域の関連外部団体(学研フードテック共創プラットフォーム、健康創造都市 KOBE 推進会議等)での活動を進展させて産学連携を強化し、産業化により近づけていく。

【コメント】

- ・大阪・関西万博開催により関西に話題が集まる上半期は、関西支部から万博の話題を中心に全国に情報発信していきたい。
- ・下半期は通常どおりの食と健康をテーマとしたシンポジウムを開催したい。
- ・今回は食文化を切り口にして、その健康への繋がりを掘り下げて話題にしたい。
- ・産業界に近い地域の関連外部団体から常に情報を入手し、産学連携の機会を伺いたい。

以上

【将来構想担当委員会】

2024 年度将来検討委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

会員データを通じて、学会の発展に向けた基礎資料の収集と分析を実施した。2024 年度は、入会年度ごとの在会・休会・退会状況、会員種別、会員の地域分布について調査を行い、会員の動向や地域的偏在を明らかにした。これらの調査を通じて、会員の継続傾向や構成の変化等について把握した。得られた結果は、学会運営や会員サービス改善に役立つ基礎データとして蓄積する。

2025 年度将来検討委員会事業計画

下記の計画が発表された。

2025 年度は、退会・休会時に行うアンケートの実施項目について検討し、これを通じて会員の継続率向上を目指す。さらに、基礎データを支部活動やイベント開催の戦略立案に活用頂く方法についても検討する。学会の中長期的な発展に向けたビジョン策定にも着手する予定である。

以上

【CELSS 担当委員会】

2024 年度 CELSS 担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

- (1) 日本地球惑星科学連合 2024 年大会@幕張メッセ、2024 年 5 月 27 日(月)
A-OS11 陸域海洋相互作用—惑星スケールの物質輸送
[AOS11-03] 有人宇宙探査のための物理化学的生命維持装置
★招待講演: 桜井 誠人 1 (宇宙航空研究開発機構)
- (2) ICES 2024 – LOUISVILLE, Kentucky
53rd International Conference on Environmental Systems
21–25 July 2024
・ICES2024 発表、
 - 1) Asuka Shima, Masato Sakurai, Yoshitsugu Sone, Hironori Nakajima, Mitsuhiro Inoue and Takayuki Abe “Improvement of the Full-Scale Model of Carbon Dioxide Reduction–Oxygen Production Tandem Reactor” CES–2024–120, , 53rd International Conference on Environmental Systems, 21–25 July 2024, Louisville, Kentucky
 - 2) Masato Sakurai, Asuka Shima, Takuma Terao, Motohiko Sato “Development of CO2 Removal System Aiming for Compactness and Power Saving —A Case for Using Granular CeO2—”ICES–2024–260, 53rd International Conference on Environmental Systems, 21–25 July 2024, Louisville, Kentucky
 - 3) Nao Hoshinouchi, Jun Sato, Saneyuki Kawabata, Tomohiro Yokozeki, Kazuya Saito, Masato Sakurai, Yasuhiro Awata “Estimation of Supplies at the Base Camp for the Start of the Stay in the Lunar Lava Tube”ICES–2024–267
 - 4) Kazuki Toma, Masato Sakurai, Shinichi Nakasuka “Regenerative ECLSS Station for Early Stage of Lunar Activities, Considering Both Crewed and Uncrewed Periods” ICES–2024–458
 - 5) Kazuki Toma, Kusano Motoharu, Murakami Gaku, Masato Ohata, Toshihiko Chiba, Taisei Hasumi, Taiki Kitagaki, Hikono Furuichi and Masato Sakurai “Strengthening Japan’s Role in Human Space Development: A Case Study of ECLSS LAB as an Education Platform”

※ ECLSS&ISRU 委員会(島)、国際委員会(桜井)

※ 次回: ICES 2025 -PRAGUE, 54th International Conference on Environmental Systems
Hilton Prague -Praha, 13-17 July 2025

(3) 日本マイクログラフィティ応用学会(JASMAC-36)

開催日: 2024 年 9 月 10 日(火)~9 月 12 日(木)

場所: 同志社大学室町キャンパス寒梅館

特別企画 III

「今後の国際宇宙探査で行う科学の検討サイクル構築」に向けた Task Force 報告
座長 竝木則行(国立天文台)、稲富裕光(JAXA)内田敦(株式会社三菱総合研究所)、
小林泰三(立命館大学)、桜井誠人(JAXA)、松本 英登(内閣府)

(4) 令和 6 年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム「月の縦孔での滞在開始用ベースキャンプの最小形態と展開着床機構の開発」にて、実物大のベースキャンプに関して検討中。

2025 年度 CELSS 担当委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) JPGU:

日本地球惑星科学連合 2025 年大会

日 時: 2025 年 5 月 25 日(日)~5 月 30 日(金)

会 場: 幕張メッセ、オンライン(ハイブリット方式)

主 催: 日本地球惑星科学連合

●特記事項:

・5 月 25 日(日)「圏外環境における閉鎖生態系と生物システムおよびその応用」において、
口頭発表とポスター発表を実施予定。

・5 月 26 日(月) A-OS14[J] 陸域海洋相互作用一惑星スケールの物質輸送(京都大学: 山
敷先生)、[AOS14-07] 月極域近傍の縦孔における水の存在の可能性と月面居住

★招待講演: 桜井 誠人(宇宙航空研究開発機構)

(2) 日本生体医工学会:

日本生体医工学会第 64 回学術大会

日時: 2025 年 6 月 6 日(金)

会 場: フェニックス・プラザ(福井県福井市)

主 催: 日本生体医工学会

シンポジウム テーマ: 「宇宙に生きる ~宇宙環境とスマートヘルス~」

特記事項: 宇宙空間で生活するための問題や、その解決に向けた研究について 4 名のシン
ポジストが発表予定(約 15 分)。テーマとして、衣食住、閉鎖空間、宇宙服、放射線被ばくが
予定されている。

座長(予定): 高田宗樹先生(福井大学)、田中邦彦先生

(3) ICES 2024 - Prague -Praha, Czech Republic

54th International Conference on Environmental Systems

13-17 July 2025

(4) 日本マイクログラフィティ応用学会(JASMAC-37)

開催日: 2025 年 9 月 11 日(木)~13 日(土)

会 場: 北海道室蘭市 FK ホールディングス生涯学習センターきらん

(5) 宇宙建築学の教科書(仮)、出版社: 彰国社、執筆中

- (6) 令和 7 年度の宇宙無人建設革新技術開発「宇宙を目指す建設革新会議」スターダストプログラム、令和 7 年度で終了の予定であったが、予算は追加しないで令和 8 年度まで延長する。宇宙基金へつなげられるか検討中。
- (7) 日本建築学会内部で「宇宙居住小委員会」が立ち上がった。東海大学、十亀先生のリード。月極域の縦孔探査用居住モジュール、地上のアナログサイト、などの建築のデザイン検討を依頼開始した。3年後ぐらいに出来る予定。
- (8) 第二期宇宙基金では、【輸送】有人宇宙輸送システムにおける安全確保の基盤技術(文部科学省)のテーマが出ており、ECLSS に関する内容も盛り込まれる様子

以上

【宇宙事業推進担当委員会】

2024 年度宇宙事業推進担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

- (1) 宇宙事業推進委員会からの情報提供として、生命維持、宇宙居住を中心とした宇宙技術、ビジネスに関連するニュース、イベント、助成金等の情報を SEE Quick で配信した。(第 13 回:2025/3/21)
- (2) 2025 生態工学会年次大会(千葉大会)での宇宙居住関連のオーガナイズドセッションの実施に向けて内容の検討を行い、以下の通り大会事務局に提案した。

【タイトル】月面・火星居住を見据えた企業等の取り組み

【発表予定者】成原(大林組)、杉村(小松製作所)、松本(栗田工業)、齋藤(IHI エアロスペース)、加藤(スペースデータ)、戸田和宏(JAXA) (順不同、敬称略)

【発表時間】15 分×6 件+質疑予備時間 10 分=100 分を予定

2025 年度宇宙事業推進担当委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 今後の活動計画

- ① 生命維持、宇宙居住に関するニュース、イベント情報、助成金・補助金情報等の情報収集を行い、SEE Quick で2〜3カ月に1回程度定期的に配信する。
- ② CELSS 委員会と協力し、2025 年次大会において「月面・火星居住を見据えた企業等の取り組み」OS の準備を進める。
- ③ NPO 法人日本火星協会等と協力して、月・火星居住をメインテーマとしたシンポジウムを検討・企画する。
- ④ 今後の活動の参考とするため、宇宙関連の他学会の事業推進委員会の活動内容を調査する。

以上

【循環型社会構築担当委員会】

2024 年度循環型社会構築担当委員会活動報告

下記のように報告がなされた。

(1) 2024 生態工学会年次大会(愛媛大会)でのオーガナイズセッションの開催

日時:2024 年 6 月 30 日(日)10:10~11:30

会場:愛媛大学農学部大講義室

テーマ:「循環型社会構築の展望と課題」(循環型社会構築委員会)

プログラム

- ・ 循環型社会構築委員会の設立趣旨
北宅 善昭(大阪公立大)土肥 哲哉(日本有機資源化協会)
- ・ メタン発酵消化液の濃縮技術の紹介と濃縮による液肥利用促進および脱炭素効果の実証
山崎 早百合(シン・エナジー(株)第二電源開発事業部 資源循環部)
- ・ 閉鎖度を高めた栽培システムにおける循環資源の利用
遠藤 良輔(大阪公立大)
- ・ 土壌微生物の有効利用~微生物発電の可能性~
馬場 貴志(株エーイーエスラボ 代表取締役)
- ・ 物質循環型農水一体食料生産アクアポニックスの現在とこれから
遠藤 雅人(東京海洋大)

総括:循環型社会構築に関する様々な分野からの最新の研究発表

参加者の関心は高く、活発な議論が展開された

(2) 第 2 回循環型社会構築委員会

日時:2025 年 3 月 4 日(火) 9:30~10:30

会場:オンライン会議

議事:2024 年度活動報告及び 2025 年度活動計画

2025 年度循環型社会構築担当委員会事業計画

下記の計画が発表された。

(1) 2025 生態工学会年次大会(千葉大会)でのオーガナイズセッションの開催

テーマ:循環型社会構築に関する課題と展望(仮題)

目的:循環型社会構築に関する研究・実践の発表と意見交換

開催予定日時:2025 年7月 4-5 日

会場・方式:千葉大学 ハイブリット(案)

講演数:3 講演を予定

(2) 循環型社会構築委員会のオンライン勉強会

目的:研究者・実務者間の課題共有とネットワークや情報発信の強化

テーマ(案):地域資源循環の課題

マイクロプラスチック問題食品ロス

サーキュラーエコノミーの実現の課題

LCA 解析の定義

その他

(3) 新たな研究・実践プロジェクトの提案

目的:循環型社会構築のための新規プロジェクトの企画・立案

関連分野の研究者・実務者との協力強化

内容:公的研究機関や企業との共同研究、公募研究への申請等の可能性を検討

以上

【各支部活動】

2024 年度各支部活動報告

下記のように報告がなされた。

【北海道・東北支部】

特筆事項なし

【中部・東海支部】

農業気象学会東海・北陸支部と合同で開催した。開催日時は 2024 年 12 月 12 日午後～5 時、開催場所は三重県四日市市(SYNTH ビジネスセンター近鉄四日市)であった。生態工学会会員からは、5 件の発表があった。

【中国・四国支部】

2024 生態工学会年次大会が愛媛大学農学部にて 2024 年 6 月 29, 30 日に開催された。学会員を中心にサポートを行った。

29 日の公開シンポジウムについては、日本学術会議、愛媛大学、日本生物環境工学会四国支部、農業情報学会の共催があった。

【九州・沖縄支部】

- ・日本農業気象学会九州支部 2024 年大会の後援(福岡県農林総合試験場, 2024 年 12 月)
- ・継続的な会員募集

2025 年度各支部事業計画

下記の計画が発表された。

【北海道・東北支部】

引き続き会員獲得に向けて努力する。

【中部・東海支部】

生態工学会中部支部及び日本農業気象学会東海・北陸支部の合同研究発表会を開催予定。(2025 年 11 月～12 月;岐阜県にて現地開催)

【中国・四国支部】

9 月 16, 17, 18 日に開催される日本生物環境工学会の愛媛大会を共催する。学術会議の公開シンポジウムを計画しているが、共催を予定している。

【九州・沖縄支部】

- ・他学会(近隣分野)九州支部との共同企画の検討(後援など)
- ・持続可能で効果的な支部活動の在り方の検討
- ・継続的な会員募集

以上

2024 年度会計報告・2025 年度会計監査報告

下記のように決算の報告がなされた。

2024年度 生態工学会 収支決算書

科 目	実績金額	摘 要 (内訳)
I 収入の部		
個人会費	866,000	正会員入金91口 学生会員5口 当該年度外 (正会員) 15口 当該年度外 (学生会員) 1口 5口 (2口1社、1口3社) (1社 (1口) 請求漏れにつき50,000円が2025年度に入金)
賛助会費	250,000	年次大会参加費、広告料
年次大会	564,900	
シンポジウム等	0	
定例研究会	0	
研究部会	0	
学会誌掲載料・広告料等	780,000	学会誌掲載料、別刷り代、広告料 (2023年度中に入金されるべき学会誌掲載料2件、 計212,000円が2024年度の収入に繰り越された)
資料代	67,528	学術著作権協会使用料分配金など
利息	1,923	
雑収入	0	
当期収入合計 (A)	2,530,351	
前年度繰越金	3,927,564	
事務所開設積立金取崩	0	
収入合計 (B)	6,457,915	
II 支出の部		
総会・年次大会経費	657,950	
シンポジウム等経費	0	
会誌作成費・同送料	903,702	
定例研究会	11,137	定例研究会費用、事務費他
研究部会	0	
広報宣伝費	0	ホームページの経費は事務局通信費等に含まれる
事務局経費	1,230,522	事務局委託費 999,240 事務局経費 159,848 通信費 71,434
関連学協会等経費	156,170	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協同 参画学協会、日本工学会、日本農学会など
理事会経費	6,600	会場費など
委員会経費	0	
表彰経費	48,140	
その他	550	雑費 (郵便振替口座の残高証明書発行費)
当期活動費支出合計 (C)	3,014,771	
当期活動費収支差額 (A) - (C)	-484,420	
事務所開設積立 (D)	0	
当期支出合計 (E) = (C) + (D)	3,014,771	
次年度繰越金 (B) - (E)	3,443,144	

事務所積立金	
1990年～2024年3月末までの積立額	¥6,000,816
2024年度利息	¥102
2024年度取崩	¥0
2024年度残高	¥6,000,918

※収支報告書につきましてはただいま会計監査手配中です。

2025 年度会計予算案

予算案について審議を行い、下記の内容で総会に提出することとなった。

2025年度 生態工学会 予算案

科 目	2025年度予算案	2024年度決算	摘 要 (2025年度予算内訳)
I 収入の部			
個人会費	1,010,000	866,000	正会員入金91口 学生会員5口 当該年度外（正会員）15口 当該年度外（学生会員）1口
賛助会費	350,000	250,000	5口（2口1社、1口4社）
年次大会	700,000	564,900	年次大会参加費、広告料
シンポジウム等	50,000	0	
定例研究会	0	0	
研究部会	0	0	
学会誌掲載料・広告料等	800,000	780,000	学会誌掲載料、別刷り代、広告料
資料代	100,000	67,528	学術著作権協会使用料分配金など
利息	2000	1,923	
雑収入	0	0	
当期収入合計（A）	3,012,000	2,530,351	
前年度繰越金	3,443,144	3,927,564	
事務所開設積立金取崩	0	0	
収入合計（B）	6,455,144	6,457,915	
II 支出の部			
総会・年次大会経費	600,000	657,950	
シンポジウム等経費	50,000	0	
会誌作成費・同送料	900,000	903,702	
定例研究会	0	11,137	定例研究会費用、事務費他
研究部会	0	0	
広報宣伝費	0	0	ホームページの経費は事務局通信費等に含まれる
事務局経費	1,230,000	1,230,522	事務局委託費 999,240 事務局経費 159,848 通信費 71,434
関連学協会等経費	150,000	156,170	日本農業工学会、日本地球惑星科学連合、男女協 同参画学協会、日本工学会、日本農学会など
理事会経費	30,000	6,600	会場費など
委員会経費	0	0	
表彰経費	50,000	48,140	
その他	0	550	雑費（郵便振替口座の残高証明書発行費）
当期活動費支出合計（C）	3,010,000	3,014,771	
当期活動費収支差額（A）－（C）	2,000	-484,420	
事務所開設積立（D）	0	0	
当期支出合計（E）＝（C）＋（D）	3,010,000	3,014,771	
次年度繰越金（B）－（E）	3,445,144	3,443,144	

事務所積立金	
1990年～2024年3月末までの積立額	¥6,000,816
2024年度利息	¥102
2024年度取崩	¥0
2024年度残高	¥6,000,918